

岩手日報

岩手日報社
盛岡市内丸3番7号
郵便番号 020-8622
電話代表019(653)4111

掲載記念

園児の体力 楽しく向上

一関市山目町の龍沢寺こども園（塩竈素明園長、園児125人）は園児の体力や運動能力の向上に力を入れている。朝の3分間走や体力測定を継続し、多様な動きを身に付ける「運動遊び」も取り入れる。総合的な体育大学の仙台大（宮城県柴田町）と協定も結び、幼児期に楽しみながら運動を習慣化させ、規則正しい生活につなげている。



元気にグラウンドを駆ける園児たち

一関・龍沢寺こども園

「きょうもマラソン頑張るぞ」。1周約50メートルのグラウンドに、園児の元気な声が響く。準備体操に続き、音楽に合わせて3分間、それぞれペースで元気にランニング。スキップやジャンプを間に入れることもあった。この日は、走った後に運動遊びの「関所破り」にも挑戦。鬼役の職員を避けながら、紅白の玉を取って自

規則正しい生活育む 仙台大とも 連携協定も

陣に戻り、横方向に反復しながら瞬発力も養った。佐藤優歩ちゃん（5）は「走るのが好き」と笑顔で息を弾ませた。同園は2020年のグラウンド整備をきっかけに、体力づくりを本格化させた。21年度からは、仙台大の子ども運動教育学科の教員の指導を受けて25メートルボール投げ、立ち幅跳びなどの体力測定を定期的に継続。結果を園の遊びに反映させ、同科1期生の高橋菜々子さん（24）も保育教諭として専門知識を生かして指導する。

連携が発展し、両者は3月、包括協定を締結。食育や教育、学生の実習も含めて多分野で協力する。同大（佐藤成人）にとつてこども園との協定は初で、高橋仁学長は「幼児期に運動に触れて体を動かすことが好きになり、小学校に入る好循環をつくれればいい」と見据える。情報化や新型コロナウイルス禍などで幼児も体動かす機会が減少する中、国も運動習慣の形成の取り組みを自治体に呼びかける。同園では運動により園児が給食を残さず、睡眠もしっかり取るなど生活面でも効果が生まれている。塩竈園長は「幼児教育に体育指導をどう取り入れるかをずっと考えてきた。大学と相互に協力し、共に学び、育てていきたい」とさらなる充実を図る。



協定を結んだ塩竈素明園長（右）と高橋仁学長